

# 摂食嚥下障害リハビリテーション治療学演習

[演習] 第1・2学年 後期 選択 2単位

《担当者名》○飯泉智子 i-zumi@hoku-iryo-u.ac.jp、飯田貴俊

## 【概要】

摂食嚥下障害のリハビリテーションを実施するための検査法、検査解析法、治療法を実践するための実技的方法を学ぶ。

## 【学修目標】

一般目標：摂食嚥下障害への実践的な対応について学ぶ。

行動目標：

1. 摂食嚥下障害のスクリーニング検査法を行える。
2. 摂食嚥下障害の専門的検査法（嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査）の解析を行える。
3. 摂食嚥下障害の治療法を行える。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	演習の概要、スケジュール、演習方法について説明する。	飯泉智子 飯田貴俊
2・3	スクリーニング検査法	種々のスクリーニング検査の演習を行い、特論で学んだ感度と特異度をふまえ評価を行う。	飯泉智子 飯田貴俊
4～14	嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査	摂食嚥下障害を有する症例の嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査を見学し、その映像を解析する。解析結果から介入法を立案しレポートを提出し、プレゼンテーションを行う。	飯泉智子 飯田貴俊
15	まとめ	提出されたレポートに関するディスカッションを行う。	飯泉智子 飯田貴俊

## 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

レポートおよびプレゼンテーション 80%、ディスカッション 20%

## 【教科書】

指定しない。

## 【参考書】

才藤栄一、植田耕一郎 監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版 医歯薬出版、2016

## 【学修の準備】

1. 関連する文献、参考書を読み予習しておくこと（80分）。
2. 配布プリント、参考書で復習し理解を深めること（80分）。

## 【実務経験】

飯泉智子（言語聴覚士） 飯田貴俊（歯科医師）